

## 厚岸湖・別寒辺牛湿原の地衣類の分類学的研究（要旨）

千葉県習志野市立習志野高等学校 志波 敬

地衣類とは菌類と藻類の2種類の生物が共生した複合生物です。まるで一つの生物であるかのように見える、強烈な共生関係にある不思議な生物です。従ってスギゴケやゼニゴケなどのコケ植物とは全く異なる系統の生物です。この地衣類は大気汚染に大変弱く、空気の汚い大都市にはほとんど見られません。自然環境のバロメーターになる地衣類がどれくらい厚岸湖・別寒辺牛湿原の周囲に成育しているかを調べるための研究を行いました。

調査は、愛冠岬周辺、北大臨海実験場周辺、北大博物館周辺、筑紫恋キャンプ場遊歩道、町民の森、イワナノ沢、別寒別牛橋周辺、大田、糸魚沢林道沿いの樹林帯、お供山、国泰寺、正行寺、教雲寺などの境内、豊栄、トドマツ林、カラマツ林、糸魚沢駅より別寒辺牛橋に向かう道路沿いの樹林帯、門静神社、丘陵公園、水鳥観察センター付近、トコタン、末広、あやめが原、オホロ周辺で行いました。

地衣類は樹木の樹皮、岩や土などの基物に着生しています。地衣類をこれらの基物よりはがし、採集日時、採集場所、基物の種類、標高などを記録し、実験室へ持ち帰りました。地位体の生殖器官やその他の外部形態および内部形態を顕微鏡で調べます。地衣類は形態のみではその種を同定することはできません。そのため、地位体に含まれる化学成分をマイクロ法や薄層クロマトグラフィー法で分析し、形態と地位成分とを総合し地衣類を同定します。地衣類は図鑑に載っていないものも多く、同定には時間がかかります。

採集した約400点の標本から、99種類の地衣類が同定されました。地衣類の種類が最も多かった地域は、愛冠岬、北大臨海実験場周辺、筑紫恋キャンプ場遊歩道、お供山でした。この地域ではトゲヒメゲジゴケ、アンチゴケ、スミイボゴケ、ダイダイゴケ、ウチキアワビゴケ、トゲトコブシゴケ、コフキトコブシゴケ、ヤリノホゴケ、キツネゴケ、キウメノキゴケ、ニセモジゴケ、ミチノクモジゴケ、モジゴケ、オオゲジゴケ、コナリボンゴケ、クロイボゴケ、チャシブゴケ、モエギイボゴケ、レブラゴケ、アオカワキノリ、クロカワキノリ、ウラグラエビラゴケ、ツヤナシエビラゴケ、キイロエビラゴケ、ウスバカブトゴケ、ナメラカブトゴケ、ヘラガタカブトゴケ、ツバカブトゴケ、クロコボシゴケ、センシゴケ、クズレウチキウメノキゴケ、ミエロクロア・イルガンス、アカギニクイボゴケ、ヤスダニクイボゴケ、ヒモウメノキゴケ、カラクサゴケ、ウスツメゴケ、ヒメトリハダゴケ、オオカノコゴケ、コトリハダゴケ、ウスバトコブシゴケ、アオゾメサネゴケ、ニサカラタチゴケ、カラタチゴケ、ツヅレカラタチゴケ、オオマツゲゴケ、アツバヨロイゴケ、ヨコワサルオガセ、ナガサルオガセ、アカサルオガセなど、多くの種類の地衣類が見られました。この地域には多様な自然が残っており、この自然を残していくことは大変意義のあることです。ほかの地域にも、ゲジゲジゴケ類、カラクサゴケ類、カラタチゴケ類、サルオガセ類など、大気汚染に非常に弱く、都市部には見られない地衣類が多く見られ、大気環境が良いことを示しています。